

日本  
初演



ピカンダーの台本  
による

J.S.バッハ

*Passionsoratorium*

《受難オラトリオ》

BWV Anh.169



1725年  
バッハは新天地ライブ  
ツィヒでの2年目になぜ  
新作を作曲せずに《ヨハ  
ネ受難曲第2稿》を演奏  
したのか？  
当初演奏するはずだった  
《受難オラトリオ》が存  
在したのではないか？

A.グリヒトリク

最新情報はこちらを  
ご覧ください。



2024年3月 2 日 (土)

開場 14:30 開演 15:00

八ヶ岳やまびこホール

北杜市高根町村山北割3315

入場無料 (定員400名)

2/1 (木) ~ 2/27 (火)  
の間に、電子申請サービ  
ス「やまなしくらしねっ  
と」から、または北杜市  
教育委員会生涯学習課に  
電話にてお申し込みくだ  
さい。当日会場でも受け  
付けます。



お申し込みフォーム

主催 山梨大学教育学部・北杜市教育委員会

お問い合わせ 北杜市教育委員会生涯学習課

TEL 0551-42-1373 FAX 0551-42-1124



【後援】山梨県、山梨県教育委員会、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社・山梨放送、テレビ山梨、テレビ朝日甲府支局、朝日新聞甲府総局、産経新聞甲府支局、毎日新聞甲府支局、読売新聞甲府支局、共同通信社甲府支局、時事通信社甲府支局、エフエム富士、エフエム八ヶ岳、八ヶ岳ジャーナル、北杜市観光協会



公益財団法人  
青山音楽財団  
AOYAMA MUSIC FOUNDATION  
KYOTO, SINCE 1987



一般財団法人チェンバロ振興財団  
The Couperin Foundation for Growth and Preservation of the Harpsichord

NOMURA 野村財団

## J.S.バッハが「受難オラトリオ」を作曲していた!?

1725年に発表されたピカンダーのオラトリオ台本により、バッハが自由詩をテキストにもつ「受難オラトリオ」を作曲していたのではないかと、アレクサンダー・グリヒトリク氏（ワイマール音楽大学）はバッハのパロディー手法を綿密に研究し、後年の作品からテキストに合う曲を選び出し、補筆・再構成した作品を発表。2023年4月にフランクフルトで”初演”され、大きな話題をよびました。マタイ受難曲の原型がここにあったのではないかと、この作品は演奏されたのか？その後どうなったのか？など謎が多い作品で、興味は尽きません。

グリヒトリク氏が2024年2月に来日し、この作品の日本初演を指揮します。演奏に先立ってオラトリオについての説明、また作品の解説があり、休憩後に作品を演奏いたします。

解説：矢澤孝樹

出演者：

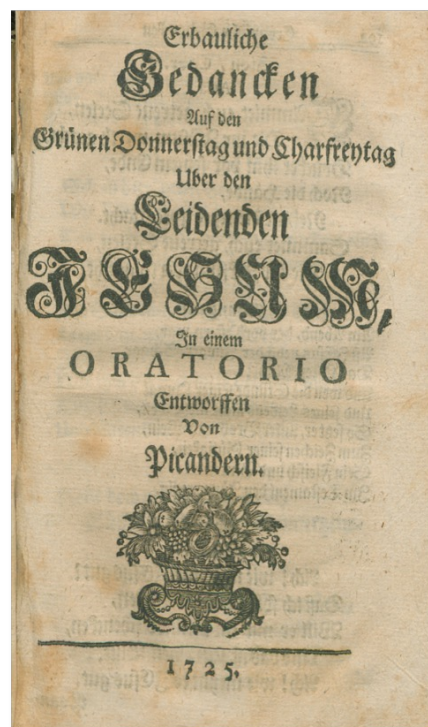
ソプラノ 高橋侑希（シオンの娘、マリア）  
アルト 金成佳枝 久保田里奈  
テノール 片野耕喜（福音書記者） 石川洋人（ヨハネ）  
バス 奥村泰憲（ペトロ） 田代和久（イエス）

ガンバ 平尾雅子 オルガン 杉本周介 チェロ 諸岡範澄

山梨バッハアカデミー・バロックオーケストラ

高橋真二（コンサートマスター）

合唱団『甲府コレギウム・アウレウム』（KoCoA）



ピカンダーが出版した詩集。タイトルページ



指揮・チェンバロ  
Prof. Dr. Dr. Alexander Grychtolik  
アレクサンダー・グリヒトリク  
ワイマール音楽大学名誉教授



【監修】  
片野耕喜（テノール、山梨大学教育学域教授）

東京学芸大学、東京芸術大学、ハンブルク音楽院、ブレーメン芸術大学古楽科卒。オラトリオを得意とし、福音書記者役はこれまで日独で25回以上歌っている。2003年に合唱団KoCoAを結成し、バッハなどヨーロッパの声楽曲を指揮して山梨に紹介しており、今年20周年を迎えた。